



毛主席、百万の大衆とともに
文化大革命を祝う

毛主席、百万の大衆とともに
文化大革命を祝う

外文出版社
北京

目次

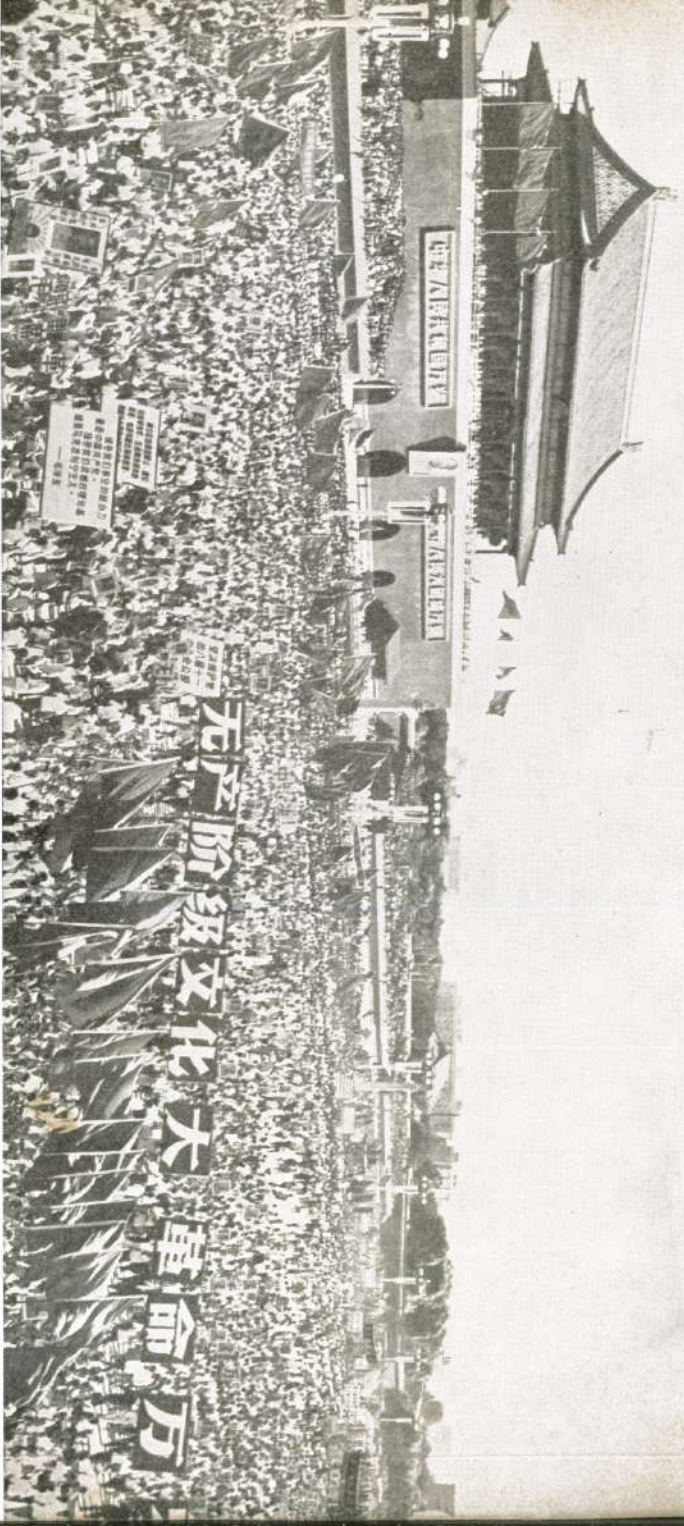
毛主席、百万の大眾とともに文化大革命を祝う……………	5
（一九六六年八月十八日）	
プロレタリア文化大革命を祝う大衆集会での林彪同志のあいさつ……………	11
（一九六六年八月十八日）	
プロレタリア文化大革命を祝う大衆集会での周恩来同志のあいさつ……………	15
（一九六六年八月十八日）	
毛主席、北京大学の革命的教員・学生と会見……………	18
新華社記者……………	
毛主席、天安門の樓上で紅衛兵と会見……………	22
『人民日報』記者……………	
毛主席の心とわれわれの心は一つに結びついている……………	26
『人民日報』記者……………	
毛主席は大衆とともにいる……………	33
『人民日報』社説……………	
（一九六六年八月二十日）	
われわれは偉大な統帥者毛主席に永遠に忠実である……………	36
『解放軍報』社説……………	
（一九六六年八月十九日）	
古いものをうちこわし新しいものをうち立てる思想の大革命……………	39
『解放軍報』社説……………	
（一九六六年八月二十日）	



天安門の楼上から大衆に手をふってあいさつをおくる毛主席



天安門の楼上で百万の革命的大衆とともにプロ
レタリア文化大革命を祝う毛主席と林彪同志



集会に参加した百万の大衆は、偉大な指導者毛主席の指導のもとにプロレタリア文化大革命を最後までやりぬく決意を表明した

毛主席、百万の大衆とともに文化大革命を祝う

(一九六六年八月十八日)

われわれの偉大な教師、偉大な指導者、偉大な統帥者、偉大な舵手毛主席は、きょう、北京と全国各地からやって来た百万の革命的大衆とともに、プロレタリア革命の中心地、われわれの偉大な祖国の首都北京の雄大な天安門広場で、プロレタリア文化大革命を祝う大会に参加した。

午前五時、太陽が東の地平線にさんぜんと光を放ちはじめたとき、毛主席は怒とうのような人の群れ、赤旗の林立する天安門広場に姿をあらわし、四方八方からここに集まってきた革命的大衆と会見した。毛主席は緑色の軍服を着ていた。毛主席の軍帽には赤い星が輝いていた。毛主席は天安門の前の金水橋を渡ると、そのまま大衆の隊列のなかに歩みより、周囲にいた大勢の人びととかく握手をし、全会場の革命的大衆に手をふってあいさつをした。この時、広場は沸きたち、人びとは両手を高くさしあげて、毛主席に向かっておどりがり、歓呼の声をあげ、拍手をおくった。多くの人は手のひらが真っ赤になるまで拍手をし、感激の涙を流した。かれらはよろこびにあふれて、「毛主席が来られた！毛主席がわれわれのところへ来られた！」と叫んだ。広場では、大衆が声をかぎりに、「毛主席万歳！万歳！万万歳！」と叫んでいた。歓呼の声は一波一波と高まり、首都の

空をゆるがした。

われわれの偉大な指導者毛主席は、この日の午前、たつぷり六時間余りをずっと百万の革命的大衆とともに過ごした。百万のプロレタリア文化革命の大部隊の祝賀デモ行進を検閲するとき、毛主席は林彪同志と肩をならべて天安門の楼上に立ち、堂々と行進するデモの隊列を見まもりながら、うれしそうに林彪同志に、「この運動は規模がひじょうに大きく、たしかに大衆を立ちあげさせており、全国人民の思想の革命化にとってひじょうに大きな意義をもっている」と語った。

赤い腕章をつけた数万の「紅衛兵」たちのさつそうとした、きびきびした姿が、全会場の注目をひいた。「紅衛兵」とは、首都北京の大学生、中学生たちがプロレタリア文化大革命の運動のなかでつくりあげた革命的大衆組織のことであり、かれらは、一生涯毛主席を守り、中国共産党を守り、祖国を守る赤い先兵となる決意を表明している。天安門の城楼や城楼の両側の観礼台には、「紅衛兵」の代表がぎつしりと立ちならんでいた。天安門の城楼、天安門広場、広場の両側の東西長安街では、この日、さつそうとした「紅衛兵」たちが会場の秩序維持にあたっていた。

大会の最中に、北京師範大学附属女子中学のある「紅衛兵」が天安門の城楼にのぼり、毛主席に「紅衛兵」の腕章をつけた。毛主席は親しみをこめて、この「紅衛兵」と握手をした。城楼の上と下に立ちならんでいた「紅衛兵」たちは、このうえないよるごびにひたつた。あるものはとびあがって、感動に胸をふるわせながら、「毛主席は統帥者で、わたしたちは毛主席の「兵卒です」といった。また、あるものは、「毛主席がわたしたちの「紅衛兵」に加わってくれたことは、わたしたちにとって最大の支持であり、はげまします。毛主席

がわたしたちの後押しをしてくださっている以上、わたしたちはなにも恐ろしいものはありません」といった。

千五百名の学生代表が、天安門の楼上にのぼり、党と国家の指導者とともに大会に参加した。毛主席と林彪、周恩来、江青らの諸同志がつぎつぎとなん回かに分けてかれらと会話し、話しあい、また、かれらといっしょに写真をとった。毛主席が会見しているとき、感激した学生たちは敬愛する毛主席をとりまき、ひっきりなしに「毛主席万歳！」を声高く叫んだ。

午前七時半、祝賀大会がはじまった。今東方紅の曲がかなでられるなかを、毛主席と林彪らの諸同志が天安門の城楼に姿をあらわした。このとき、全会場の大衆はよろこびにおどりがった。赤い『毛主席語録』をさしあげる無数の手が天安門に向かって伸び、百万の火ともえる心が毛主席に向かい、革命的熱情をこめた百万の目が毛主席をおおぎ見た。敬愛する毛主席が質素な木綿の軍服を着ているのを見て、人びとはいっそう深い感激にうたれた。かれらは、「軍服を着ておられる毛主席にわたしたちはいっそう親しみを覚えます。毛主席は永遠にわたしたちとともにたたかっておられるのです」と語った。また、ある人は、「毛主席のような最高の統帥者をもっていることに、わたしたちはこのうえない幸福を感じます。わたしたちは、一生涯毛主席のりっぱな戦士となり、一生涯毛主席にしたがって革命をやりぬく決意です」とのべた。

祝賀大会は、中国共産党中央委員会政治局委員・中央文化革命小組組長陳伯達同志によって司会された。陳伯達同志は開会のあいさつのなかで、「われわれの偉大な指導者、偉大な教師、偉大な舵手毛主席が、きょう、ここでみなさんと会われることになりました。（大衆は毛主席に向かって熱烈に歓呼）毛主席はつねに大衆とともに

におられます。主席の心は、永遠に大衆に向かっています。われわれの今回のプロレタリア文化大革命は、毛主席がみずから指導されているものです。きょう、主席がみなさんと会われたことは、われわれを大いにはげまし、文化大革命を大いに推進することでしょう」とのべた。

つづいて、林彪同志が全会場にひびきわたるあらしのような拍手のなかであいさつをのべた。(全文は本書一ページを参照)

そのあと、周恩来同志が大会であいさつをおこなった。(全文は本書一五ページを参照)

林彪同志と周恩来同志があいさつをしているあいだ、広場の百万の大衆は、くりかえしくりかえし腕をふりあげて、「プロレタリア文化大革命万歳!」「偉大な中国共産党万歳!」「偉大な毛沢東思想万歳!」「偉大な指導者毛主席万歳! 万歳! 万万歳!」と高らかに叫んだ。

北京大学の代表聶元梓ニエユンシさんや北京、ハルビン、長沙チャンシャ、南京ナンキンなど各地の大学生、中学生たちが、あいついで大会であいさつをのべた。かれらは偉大な指導者毛主席への、このうえなく深く、このうえなくひたむきな感情を胸いっぱいいただき、全国なんばん千万の革命的教員・学生の、かならずプロレタリア文化大革命を最後までやりぬくという鋼鉄のような意志を胸にいだいて、毛沢東思想をうけつぎ、伝えていく決意を表明し、われわれの難攻不落の社会主義の国家を永遠に変色させないことを誓った。かれらはこう語った。

「われわれの国家ではいま、偉大な指導者毛主席の指導のもとで、史上かつてないプロレタリア文化大革命がおしすすめられています。これは世界的な意義をもった革命です。われわれはかならずふるい世界をうちくつき、新しい世界をつくりあげ、プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめます」

「大海を航行するには舵手にたよらなければならず、万物が生長するには太陽の光が必要です。革命をやるには毛沢東思想にたよらなければなりません。わたしたちは、もつとも、もつとも敬愛する偉大な指導者毛主席の長寿を心からいのつています。わたしたちはかならず毛主席の話を聞き、国家の大事に関心をもち、プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめます。わたしたちはかならず、毛主席の教えにしたがって、あれ狂うあらしのなかで、風雨にさらされ、広い世間を知り、プロレタリア革命事業のもつとも信頼できる後継者になります」

「毛主席はわたしたちの心のなかの、もつとも、もつとも赤い太陽です。中国人民の革命は、これまで風波のたたない平穏なものはありませんでした。わたしたちは毛主席の教えを深く心にきざみ、あれ狂うあらしのなかで、みずからを鍛え、みずからをためさなければなりません。わたしたちは、死をかけて党中央を守り、毛主席を守ります。わたしたちの前には刀の山、火の海が横たわっています。しかし、毛沢東思想の光り輝く燈台も立っているのです。毛沢東思想にみちびかれてわたしたちはかならず勝利をかちとります」

「いま、毛主席はわたしたちといっしょに立っておられます。これはわたしたちの一生涯毛主席の著作を読み、毛主席の指示どおりに事をはこび、毛主席のりっぱな学生になります」

各地からやってきた革命的学生の革命的熱情にあふれたあいさつは、天安門広場にあらしのような長い拍手をまきおこした。

祝賀大会の終了後、百万の大衆によって形づくられたプロレタリア文化革命の大部隊は、堂々と天安門広場を

行進し、偉大な指導者毛主席の検閲をうけた。首都と全国各地からやってきた大学、中学校の革命的教員・学生、首都の労働者、農民、人民解放軍指揮員・戦闘員、機関幹部は、闘志にあふれ、意気高く、元気いっぱい、天安門広場を通り過ぎた。かれらはそこで毛主席と党中央にたいし、断固として党中央のプロレタリア文化大革命についての決定を擁護し、党の八期十一中総の公報を擁護すること、かならずプロレタリア文化大革命の猛将となって、プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめ、社会主義革命を最後までおしすすめることを表明した。

毛主席と林彪、周恩来らの諸同志は、天安門の楼の上に立って、デモ行進の隊列を検閲し、百万の革命的大衆に向かつてたえず手をふり、あいさつをおくった。祝賀のデモ行進がおこなわれているあいだ、毛主席と林彪らの諸同志はずっと天安門の楼の上に立ち、なんどもなんども広場の百万の革命的大衆に拍手をおくった。百万の大衆は今大海を航行するには舵手にたよるをくりかえし歌い、「毛主席万歳！ 万歳！ 万万歳！」をいくどもいくども声をかぎりに叫んだ。

この大衆集会にはなお、各分野の責任者が参加した。（新華社発）

プロレタリア文化大革命を祝う

大衆集会での林彪同志のあいさつ

（一九六六年八月十八日）

同志のみなさん、学生のみなさん

わたしはまず、わたしたちの偉大な指導者毛主席に代わって、みなさんにあいさつをおくります。また、わたしは党中央を代表して、みなさんにあいさつをおくります。

わたしたちは、あなたがたの、敢然と突進し、敢然と行動し、敢然と革命をおこない、敢然と反逆するプロレタリアートの革命的精神を、断固として支持します。

今回のプロレタリア文化大革命の最高司令官はわたしたちの毛主席です。毛主席が統帥者です。わたしたちが偉大な統帥者の指揮のもとに、わたしたちの統帥者——毛主席の話をよく聞くなら、文化大革命はかならず順調に発展し、かならず偉大な勝利をかちとることができるにちがいありません。

毛主席の提起したプロレタリア文化大革命は、共産主義運動におけるはじめての偉大な壮挙であり、社会主義

革命のはじめての偉大な壮挙であります。

プロレタリア文化大革命は、ブルジョア思想を消滅し、プロレタリア思想をうち立て、人の魂を改造し、人の思想の革命化を実現し、修正主義の根をとりぞき、社会主義制度を強化し、発展させるものです。

わたしたちは資本主義の道をあゆむ実権派をうち倒し、ブルジョアシーの反動的な権威者をうち倒し、すべてのブルジョア王党派をうち倒し、革命に圧迫をくわえる種々さまざまな行為とたたかい、あらゆる妖怪変化をうち倒さなければなりません。

わたしたちは、搾取階級のあらゆる旧思想、旧文化、旧風俗、旧習慣を大いにうちこわし、社会主義の経済的土台に適應しないあらゆる上部構造を改革しなければなりません。わたしたちは、すべての害虫を退治し、すべての足手まといをとりぞかなければなりません。

わたしたちは、プロレタリアートの権威を大いにうち立て、プロレタリアートの新思想、新文化、新風俗、新習慣を大いにうち立てなければなりません。ひと言でいえば、毛沢東思想を大いにうち立てなければならぬということです。わたしたちは、なん億という人民に毛沢東思想を掌握させ、毛沢東思想にあらゆる思想の陣地を占領させ、毛沢東思想によって社会全体の精神的様相をあらため、毛沢東思想という偉大な精神的力が偉大な物質的力に変わるようにしなければなりません。

今回の文化大革命は、わたしたちの党と国家の運命にかかわる大きなできごとであり、わたしたちの党と国家の前途にかかわる大きなできごとであります。

この文化大革命をりっぱにやりとげるために、わたしたちはなににたよるのでしょうか。偉大な毛沢東思想に

たより、大衆の知恵と力にたよるのです。

毛主席は、現代におけるプロレタリアートのもつともすぐれた指導者であり、現代におけるもつとも偉大な天才であります。毛主席は、もつとも大衆を信頼し、もつとも大衆に関心をよせ、もつとも大衆の革命運動を支持しており、毛主席の心は革命の大衆の心とたく結びついています。

毛沢東思想は、マルクス・レーニン主義の発展におけるまったく新しい段階であり、現代最高の水準のマルクス・レーニン主義であり、人びとの魂を改造する現代のマルクス・レーニン主義であり、プロレタリアートのもつとも強力な思想的武器であります。

人民大衆は歴史の創造者です。人民大衆は毛沢東思想を掌握すれば、もつとも聡明で、もつとも勇敢になり、限らない力を發揮することができます。

わたしたちは、毛主席のすぐれた指導をうけ、毛沢東思想というこのもつとも鋭い武器を掌握すれば、あらゆる障害をとりぞき、すべての敵にうち勝ち、プロレタリア文化大革命の完全な勝利をかちとることができるのです。

最近、党中央が公布した『プロレタリア文化大革命についての決定』は、偉大な指導者毛主席がみずから中心となって制定したものであり、プロレタリア文化大革命の偉大な綱領であり、毛沢東思想の最新の具体的あらわれであります。わたしたちは、かならず断固としてこの決定どおりに事をはこび、思いきって大衆をたちあがらせ、なにもかもひきうけて代行することにあくまで反対し、確固として革命的左派に依拠し、中間派を獲得し、大多数の人びとと団結し、力を集中して、ひとにぎりのもつとも反動的な右派に打撃をあたえ、プロレタリア文

化大革命を最後までおしすすめなければなりません。

文化大革命は長期の任務です。その間には、大きな戦役もあれば、小さな戦役もあり、それはひじょうに長い期間にわたってつづけられるでしょう。ブルジョア思想が存在するかぎり、わたしたちはどこまでも戦わなければならず、最後まで戦いつづけなければなりません。

今回は大きな戦役であり、ブルジョアジーおよびあらゆる搾取階級思想にたいする総攻撃です。わたしたちは、毛主席の指導のもとに、ブルジョア・イデオロギーや旧風俗、旧習慣の力にたいして、猛烈な攻撃をくりひろげなければなりません。また、反革命修正主義分子、ブルジョア右派分子、ブルジョアジーの反動的な権威者を徹底的にうち倒し、たたきつぶし、かれらの威光をたたきおとし、永久にたちあがれないようにしなければなりません。

プロレタリア文化大革命万歳！

偉大な中国人民万歳！

偉大な中国共産党万歳！

偉大な毛沢東思想万歳！

偉大な指導者毛主席万歳！ 万歳！ 万万歳！

プロレタリア文化大革命を祝う

大衆集会での周恩来同志のあいさつ

(一九六六年八月十八日)

同志のみなさん、学生のみなさん
こんにちわ。

みなさん元気ですか。みなさんに、プロレタリアートの革命的なあいさつをおくりします。

わたしたちは、全国各地からやってきた革命的な学生と教員・職員・労働者に、心からの歓迎の意を表します。みなさんご苦労さまでした。

党中央は、つい先日第十一回総会をひらいたばかりです。この会議は、毛主席がみずから主宰してひらかれたものです。これは偉大な歴史的意義をもつ会議です。こんどの会議の成功は、毛沢東思想の新しい勝利です。ここ数日、全北京は喜びにわたしたち、全国の都市と農村は喜びにわたしたち、いたるところでドラや太鼓がうち鳴らされ、喜びのメッセージがおくられ、祝賀会がひらかれ、決意書が書かれています。なん億という人民が、プロ

レタリ文化大革命の奔流に身を投じています。きょうまた、わたしたちは、天安門広場で、わたしたちの偉大な指導者毛主席とともに祝賀大会をひらき、プロレタリア文化大革命の新しい高まりを迎えています。

こんどの会議が採択した十六カ条は、毛主席みずからの指導のもとで制定されたものであり、プロレタリア文化大革命の綱領です。すべての革命的な同志は、みな真剣にこれを学習し、これを熟知し、これを掌握し、これを運用しなければなりません。これは、わたしたちのプロレタリア文化大革命の戦闘の武器であり、わたしたちの行動の指針です。わたしたちは、かならず、この偉大な綱領をよく学び、運用し、わたしたちの实际行动に貫いていかなければなりません。

毛主席は、わたしたちに、革命は自分にたよらなければならぬ、と教えています。わたしたちは、自分で自分を教育し、自分で自分を解放し、自分で立ちあがって革命をおこなわなければなりません。すべての革命家は、誠心誠意人民に奉仕し、人民の勤務員となり、まず大衆の生徒となつてから、そのあとで大衆の先生とならなければなりません。なにもかも請け負って代行したり、役人風や旦那風を吹かせたり、大衆の上に立つてでたらめな指揮をしたりすることに、だんことして反対しなければなりません。

わたしたちは、北京市の革命的學生と各地から来た革命的學生が、たがいに学びあい、支援しあい、革命の経験を交流し、革命的団結を強めるよう希望します。首都の學生のみなさん、あなたがたは主人です。あなたがたは、お客さまを十分にもてなし、プロレタリア的な友愛の精神を發揮し、かれらが困難を解決するのを熱情をもつて援助し、問題があればよく話し合うようにしなければなりません。

北京市の革命的教員・學生も、各地の革命的教員・學生も、そのおもな任務は、自分の所属單位の文化大革命

をりつばにやりとげること、つまり第一に闘争をりつばにおこない、第二に批判をりつばにおこない、第三に改革をりつばにおこなうことです。これは、ひじょうに光榮ある、またなみなならぬ任務です。あなたがたは、かならず、大胆に自分でこの重荷をかつがなければなりません。わたしたちは、あなたがたがかならずこの重荷をかつぐことができると信じます。

プロレタリア文化大革命のなかで、わたしたちは、大いにブルジョア思想をたたきつぶし、大いにプロレタリア思想をうち立てなければなりません。言いかえれば、大いに毛沢東思想をうち立てることです。大海を航行するには舵手にたよる。わたしたちの偉大な舵手、それは毛主席です。わたしたちは、林彪同志のよびかけにこたえて、毛主席の著作を實際と結びつけて学び運用する大衆運動を、全党、全軍、全国でいつそうくり広げなければなりません。

わたしたちは、かならず、毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげ、プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめ、社会主義の中国をプロレタリアートの難攻不落の国家にきずきあげ、中国人民と世界の革命的人民がわたしたちに課した光榮ある歴史的使命をはたさなければなりません。

プロレタリア文化大革命万歳！

プロレタリアート独裁万歳！

中国共産党万歳！

無敵の毛沢東思想万歳！

わたしたちの偉大な指導者毛主席万歳！ 万万歳！

毛主席、北京大学の革命的教員・学生と会見

新華社記者

「とうとう毛主席に会えたぞー！」

「もつとも、もつとも敬愛する偉大な指導者毛主席がぼくたちに握手をされ、しかも、いっしょに写真をとられたんだ！」

「わたしたちはほんとうにしあわせだ！」

この感動的なニュースが、きょう、いちはやく北京大学の校内に伝えられると、革命的教員と革命的学生たちはこのうえない喜びにひたつた。

きょう、プロレタリア文化大革命を祝う大衆大会に参加した北京大学の教員・学生は、もつとも敬愛する偉大な指導者毛主席に二度会うことができた。最初は、夜が明けたばかりの午前五時、まっ赤な太陽がさんぜんと光を放ちながら、赤旗でうずまつた天安門広場を照らしたところ、人民解放軍の軍服をつけ、軍帽をかぶった毛主席が元氣いっばいの姿で、百万の大衆のなか、まず北京大学の革命的教員・学生のなかへやってきた。「毛主席万歳！」「毛主席万歳！」と人びとはおどりがつてなんどもなんども敬呼の声をあげた。七時十六分、毛主席

はふたたび天安門の楼上で聶元梓同志ら北京大学の革命的教員・学生の代表と会見した。このとき、人びとの喜びは絶頂に達した。

天安門の楼上で、偉大な指導者毛主席と林彪同志、周恩来同志らが北京大学の革命的教員・学生の代表と会見したとき、誰かが、「毛主席、お話をしてください」といった。すると、周恩来同志が、「最近、発表された党中央のプロレタリア文化大革命についての決定と党の第八期中央委員会第十一回総会の公報は、毛主席がみずから主宰して制定されたものです。みなさんはみな『毛主席語録』を持つているでしょう？ それに書かれているのはみな毛主席の話です。毛主席の話をよく聞き、十六カ条を学習し、十六カ条に精通し、十六カ条を自分のものにし、十六カ条を運用しなければなりません。林彪同志の言われたように、実際に結びつけて学び、運用し、運用することに思いきり力をいれるようにしなければなりません」とねんごろに話した。

正午、多くの人びとが学校に帰ってまず最初にしたことは、毛主席に会ったことを学友たちに告げたことだった。かれらは毛主席と握手した手を学友たちにかわるがわるしつかりと握りしめられながら、このように語った。毛主席が自分たちにもこのように関心をよせてくれていることは、自分たちにもたいするこのうえない思いやりであり、はげましである。自分たちは永遠に毛主席の著作を読み、毛主席の話を聞かなければならない。また、十六カ条をよく学習し、りっぱに運用して、陸平、彭珮雲ら反革命の悪党どもをうち倒し、たたきつぶし、鼻持ちにならないものにし、プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめなければならない。多くの人は二十時間以上も寝ていなかったが、なにをおいてもまっさきに日記を書いて、この一生忘れれることのできない幸福な時刻を書きしるした。

北京大学は、前北京市委員会の反動的なとりで、陸平、彭珮雲ら反革命の悪党どもによって長年ブルジョアジー独裁をおこなわれていた大学であったが、二カ月余りにわたるプロレタリア文化大革命の激しい闘争を経て、ついに革命的人民の手中にとりもどされ、北京大学の革命的教員・学生の手の中にとりもどされたのである。きょう、北京大学の革命的教員・学生たちの隊列は、数十本の赤旗と軍楽隊を先頭に、聶元梓ら七人の同志が今年五月二十五日に書いた『宋碩、陸平、彭珮雲は文化革命のなかでいったいなにをしたか』と題する最初の大字報を張ったプラカードをかかげて、堂々と大学・専門学校のデモ隊の最前列を行進した。

北京大学の革命的教員・学生は、自分たちが直接体験した闘争のなかで、永遠に毛主席からはなれることができず、永遠に毛沢東思想からはなれることができないことを痛切に感じとっていた。この点について、聶元梓同志の体得はとりわけ深いものであった。かの女は、わたしたちは困難にあつたとき毛主席を思い、幸福を感じたときいっそう毛主席を思いました。わたしたちはいつも、毛主席がわたしたちのそばにおられ、永遠にわたしたちのそばにおられるのだと感じています、と語った。

聶元梓同志と、かの女といっしょにたたかっていた北京大学哲学部の革命的同志は、かつて陸平、彭珮雲ら反革命の悪党どもから目の上のこぶとみなされ、残酷な打撃と迫害を受けた。聶元梓同志は、「わたしたちが毛主席にもっとももっとも思いをはせたのは、陸平、彭珮雲ら反革命の悪党どもももっともきびしくたたかっていたときです。黒雲が空をおおっていたあの暗黒の日々には、ただ毛主席だけがわたしたちの心のなかの赤い太陽でした。毛主席を思い、毛主席の著作を学習するたびに、わたしたちは全身にもっとも強烈な力がわいてくるのを感じました」と語った。

聶元梓同志は、いま北京大学文化革命準備委員会の主任委員で、かの女といっしょに最初の大字報を書いた七人の同志のひとりである楊克明同志は、いま準備委員会の事務室責任者をしている。楊克明同志もきょう、天安門の楼上でわれわれの偉大な指導者毛主席に会ったあと、つぎのように自分の感想を語った。「これまで、わたしたちは毛主席に会いたいと夢にまで思っていました。ところが、陸平ら反革命の悪党どもはわたしたちを毛主席に会わせず、毛主席に北京大学の革命的大衆の声を聞かせませんでした。これを思い出すと、わたしたちの胸は怒りでいっぱいになります！しかし、悪党どもには毛沢東思想の輝かしい光をおおうことは絶対にできません。わたしたちは毛沢東思想で自分を武装し、永遠に革命をやりぬき、徹底的に革命をやりぬきます！」

同じく北京大学文化革命準備委員会の事務室責任者である李清昆同志と孫蓬一同志もはげしい語調でこう語った。毛主席はわたしたちにもっとも関心をよせ、わたしたちにもっとも大きな支持をあたえ、わたしたちをもっともいたわってくださいています。わたしたちは永遠に毛沢東思想を学習し、毛沢東思想を宣伝し、毛沢東思想を守りぬき、毛主席の指示どおりに事をはこび、プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめなければなりません。

毛主席、天安門の楼上で紅衛兵と会見

『人民日報』記者

八月十八日、朝日に映えて紅色に色どられた天安門^{天安門}の楼上で、毛主席は紅衛兵の代表数百名と会見した。このあと、天安門の楼上から意気揚々と下りてきた紅衛兵の代表たちは、内心の喜びをかくしきれずおどろしなげら、両腕を高々とさしあげて、「毛主席万万歳！」と歓声をあげた。なかでも、毛主席と握手した紅衛兵たちの感激ぶりは筆で書きあらわせないほどであった。敢然と反逆した清華大学^{清華}附属中学の革命の小勇將^{小勇將}駱小海君^{駱小海}は、深い感情をこめてこう語った。「毛主席、あなたはわたしたちの心のなかの永遠に沈まない赤い太陽です！」つづけてかれはこう語った。「ブルジョア^{ブルジョア}の『權威』者は、ぼくたちの書いた『革命的反逆精神万歳』という文章に必死になって反対しましたが、そのとき、まさき^{まさき}にのりだしてぼくたちを支持し、この文章の革命的な精神を高く評価してくださったのは、毛主席でした。毛主席、毛主席！あなたがおられ、あなたの著作があるかぎり、ぼくたちにはなにも恐ろしいものはありません。ぼくたちはいつさいの修正主義にたいして敢然と反逆し、あらゆる敵をけちらし、永遠に勝利をかちとつてゆきます！」

毛主席に最初に会ったのは駱小海君^{駱小海}だった。毛主席が休憩室にいたとき、駱小海君は清華大学附属中学の二人

の学友^{学友}宋柏林君^{宋柏林}、韓平君^{韓平}といっしょに毛主席のそばに近より、大きな声で、「毛主席、こんにちは！毛主席、こんにちは！」と叫んだ。すると、毛主席は、やさしい、親しみのこもった笑顔で、「こんにちは！ こんにちはは！」とあいさつをし、つづけて、「きみたちはどの紅衛兵だね？」とたずねた。「清華大学附属中学の紅衛兵です。ぼくたちはブルジョア^{ブルジョア}と修正主義にたいして永遠に反逆します！」革命の小勇將^{小勇將}たちがよくひびく声でこう答えると、毛主席はうれしそうに、「わたしはきみたちを断固として支持するよ！」といった。革命の小勇將^{小勇將}たちは興奮して、「毛主席、いつまでもお元気で！」「毛主席万万歳！」と高らかに叫んだ。

毛主席が紅衛兵たちのなかにやってきたとき、紅衛兵たちの血はわきかえり、「毛主席万万歳！」の歓声が四方にとどろき、われわれの偉大な指導者毛主席をたたえた歌々^{歌々}東方紅^{東方紅}と今大海^{今大海}を航行するには舵手^{舵手}にたよる^{よる}がくりかえしくりかえし歌われた。

ブルジョア^{ブルジョア}的教育制度にたいして最初に火ぶたをきつた学校の一つ——北京市第四中学の学生^{学生}孔丹君^{孔丹}、李克津^{李克津}君^君たちは、毛主席と握手したとき、感激に胸がふるえて一言もしやべれなかった。かれらは全身に力がみなぎるのをおぼえ、毛主席について一生涯革命をおしすすめ、刀の山^{刀の山}であろうと、火の海^{火の海}であろうとどこまでも突進してゆくことを心に誓った。毛主席、林彪^{林彪}副主席^{副主席}となりあつて写真^{写真}をうつした第四中学の学生^{学生}徐子非君^{徐子非}は、こう語った。「これはぼくの一生のうちでもっとも幸福な、もっとも光栄なできごとです！ ぼくはかならず毛主席と林副主席^{副主席}の期待にこたえて、階級闘争^{階級闘争}のあらしの試練^{試練}にたえられるプロレタリア革命事業の後継者^{後継者}となります！」
勇敢に敵とたたかつた有名な戦闘組織——北京大学附属中学の「紅旗」戦闘小組^{戦闘小組}のメンバーである王戰勝君^{王戰勝}と毛鋒君^{毛鋒}は、毛主席と握手したときの感想をつぎのように記者に語った。「毛主席があのよう健康で、あのよう

に慈愛にみちた顔をしておられるのを見て、ぼくたちはこのうえない喜びをおぼえました。また、自分たちがつともしあわせな人間であることを感じました。いつも、ぼくたちは毛主席に話したい話したいと思つていましたが、いざ会ってみると、なにから話してよいのかわからず、ただ、感激のあまり涙を流すばかりでした。毛主席と握手したとき、暖かいものがシーンと体じゅうに伝わってくる感じがして、たった一言、これから、かならず毛主席の著作をよく学び、毛主席の話をよく聞き、毛主席の指示どおりに事をはこびます！プロレタリア文化大革命のなかでかならず猛将になります！といっただけでした」

清華大学附属中学の学生周春曉君は、毛主席が軍服を着、紅衛兵の腕章をつけているのを見て、言葉でいっくせない喜びを感じた。康生同志が、「毛主席も紅衛兵に参加されたよ！」と話すと、周君はとびあがつて、「毛主席は紅司令で、ぼくたちは毛主席の紅衛兵です！」といっただけだ。

毛主席は紅衛兵の代表たちと会つたあと、さんさんと陽光のふりそそぐ天安門樓上の中央に立ち、「毛主席万歳」と叫ぶ百万の大衆に向かつて、手を振つてあいさつを送つた。觀礼台にいた数万の紅衛兵はいっせいにどどりあがつて歓声をあげた。このとき、革命的な熱情は空前の高まりを示した。紅衛兵たちは、毛主席をもつとはつきりと見たいとどんなに願つていたことであろう！かれらは声をそろえて、ありつたけの声で叫んだ。「毛主席を見たい！見たい！見たい！」かれらはまったく赤な『毛主席語録』を振つていた。それはまるで烈火が燃えひろがるようだった。西側の觀礼台にいた北京航空学院附属中学の学生王亞平君が、「毛主席にぼくらの声が聞こえるだろうか？」とつぶやいたちようどそのとき、毛主席が天安門の中央から西の端へやつてきて、みんなに手を振つた。と、たちまち觀礼台には天をもゆるがすような「毛主席万歳」の歓

声があがった。王亞平君は感激してこう語つた。「毛主席はぼくたちの気持ちを知つておられる。毛主席とぼくたちの心は一つにつながつてゐる！」

毛主席の心とわれわれの心は一つに結びついている

『人民日報』記者

一九六六年八月十八日の早朝、われわれの偉大な教師、偉大な指導者、偉大な統帥者、偉大な舵手毛主席は、天安門の楼上で、百万の革命的な大衆とともにプロレタリア文化大革命を祝った。

天安門の広場は無数の赤旗でうずめられていた。

広場の中央の最前列に、北京大学の革命的教員・学生の隊列が並んでいた。かれらは、聶元梓ら七人の同志が吹き鳴らしたプロレタリア文化大革命の戦闘ラップ——最初の革命的大字報を高くかかげていた。この大字報は二〇世紀六十年代の『北京コンミュニオン』の宣言書である。広場の中央には、上海、天津、武漢、廣州、ハルビン、ウルムチ……からわれわれの偉大な祖国の首都にやってきた革命的教員・学生がいた。なん千なん万という目が同じ方向に向かってじっと注がれていた。われわれのもっとも敬愛する偉大な指導者が、普通の兵士の着る緑色の軍服をつけて、△東方紅△のかなでられるなかをおごそかに、そして慈愛にみちた面持で、天安門の楼上に姿を現わした。このとき、広場全体はたちまち歓喜のルツボと化した。多くの人びとが日夜待ちのぞんでいたのもっとも幸福なひとときがいつにやってくるのだ。「毛主席万歳！ 万歳！ 万万歳！」のスローガン

が高らかに叫ばれた。若ものたちはおどろきあがり、歌を歌って、この一生のうちもっとも大きな幸福を思う存分に味わった。

毛主席にいちばん近い観礼台に数方の紅衛兵が陣どっていた。毛主席は天安門の楼上でかれらの代表と会見し、いっしょに写真をとった。かれらはあまりのうれしさに、毛主席に握手された手を振りかざしながら、狂ったように駆けまわり、おどろきあがった。かれらは毛主席の腕に「紅衛兵」と刺しゅうした大きな赤い腕章をつけた。また、毛主席にまっ赤なネッカチーフをつけた。われわれの偉大な指導者が楼上の東の端から西の端に歩みをすすめると、それにつれてどつとあらしのような拍手と歓声がまきおこった。

毛主席のもっとも親密な戦友林彪同志は、「まず、わたしは偉大な指導者毛主席に代わってみなさんにあいさつを送ります」といった。

すると、若ものたちはつきつきとこたえた。

「毛主席がこんなに健康でこんなに元気なのを見て、ぼくたちはもっとも大きなもっとも大きな幸福を感じました」

「毛主席、あなたこそ革命をやり、反逆しようとするわたしたち若もの気持ちをいちばんよく知っていられます。あなたは、わたしたちにもっとも大きな支持をあたえ、もっとも大きなはげましをあたえてくれました。わたしたちはかならずしつかりとあなたについて、荒れくるうあらしのなかを突き進んでゆきます」

「あなたがさし示すところなら、わたしたちはどこへでも突進してゆきます。あなたの導きさえあれば、わたしたちは天をおそれず、地をおそれず、刀の山でも、火の海でも突き進んでゆきます。わたしたちは永遠に

あなたについて革命をやりませう」

「ぼくたちはかならずあなたの教えを守り、国家の大事に関心をよせ、革命の重荷をかつぎ、プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめます」

*

*

*

天安門広場の正面に、地方から首都にやってきた革命的青年の隊列が並んでいた。かれらは、きょう、天安門広場で毛主席といっしょになれたことに、このうえない幸福を感じていた。革命軍人の娘である丁雪虹^{テイインシユエホン}さんは、「夢にまで毛主席を見たいと思っていたわたしの願いが、とうとう、きょう実現しました！毛主席の心のなかにはわたしたちがあり、わたしたちの心のなかには毛主席があります。毛主席は永遠に永遠にわたしたちといっしょです」と語った。貧農の息子李作華^{リツァオホア}君は、「数日まえ、ぼくたちは大雨をついて北京にやってきましたが、きょう毛主席といっしょにすごすことができ、ほんとうに太陽が特別に暖かく、心のなか特別に熱くなったように感じました」各地からやってきた多くの半工半読の学校の教員・学生たちは、先を争って決意をのべた。わたしたちはかならず毛主席の著作を読み、毛主席の話を聞き、大衆闘争のなかでなん千回なん万回ともまれながら、自分を真つ赤な後継者に鍛えあげてゆきます。

*

*

*

北京大学の文化革命準備委員会の主任韓元梓同志は天安門の楼上から下りてくると、興奮してつぎのように

語った。「毛主席はわたしたちとともに五時間も愉快に、たのしくすごされ、プロレタリア文化大革命を祝われました。わたしたちは毛主席をかぎりなく熱愛し、かぎりなく信仰し、かぎりなく崇拜しています。わたしたちは、反党分子陸平^{リョウヘイ}とだんこととして闘争しているとき、毛主席を思うと、とたんに全身に力がみなぎり、わたしたちの闘争がかならず勝利するという確信を抱きました。

「毛主席はすでに三回もわたしたちと会見されました。会見されるたびに、わたしたちは特別に深い感動をうけました。毛主席はわたしたちにひじょうに関心をよせられています！学校へ帰ってから、わたしたちはかならず毛主席の話を聞き、毛主席の期待にそえるよう頑張ります。わたしたちは十六カ条を学習し、十六カ条に精通し、十六カ条を運用し、大衆とともにプロレタリア文化大革命を最後までおしすすめ、实际行动で毛主席の配慮と関心に応えるつもりです」

*

*

*

北京第五中学の紅衛兵鄭昕^{テイインシン}君と李西平^{リシテイ}君は、天安門の楼上で毛主席と握手してとびあがらんばかりに喜んだ。かれらは興奮していった。「ぼくたちは毛主席と握手しました。いや、ほんとうは、毛主席の手にちよつとふれただけです。けれどもそのとき、ぼくたちは暖かいものが全身に流れ、胸が急に熱くなるのをおぼえました。それはかぎりない力をあたえてくれました。ぼくたちはかならずこの両手で一生涯革命をやりませう」。北京第五中学の学生たちは毛主席に紅衛兵の腕章をおくった。この腕章には、毛主席の像を型どった七種類のバッジがついており、「無敵の毛沢東思想万歳！」「毛主席の長寿をおいのりします」と書いてあった。毛主席がこの贈り物

をうけとったとき、学生たちは言葉でいつくせない喜びを感じた。かれらは、偉大な指導者毛主席に伝えたいと日夜願いつづけていたかれらの敬愛の気持ちを、ついに直接毛主席に伝えることができたのだ。

石家莊第六中学の五名の学生も、きょう、天安門の楼上で毛主席の検閲をうけ、さらに、毛主席と並んで写真をとった。かれらはうれしさのあまり自分の気持ちをどうあらわしてよいのかわからなかった。かれらはただまごころをこめてこう語っただけだった。かならず毛主席の配慮と関心、そして、首都の革命的教員・学生の敢然と行動し、敢然と突進する精神をたずさえて帰り、自分の学校の文化大革命をりっぱにおしすすめます。毛主席とならんで写真をとった賈集有君ははげしく感動して、「これからは、自分が毛主席のそばに立って写真をとったことを思いだすと、なにもものをもおそれない力がわいてくると思います。ぼくは永遠に毛主席にしたがい、永遠に信頼できるプロレタリアートの後継者になります」と語った。

きょう、天安門の楼上で一生のうちもつとも忘れたい日をすごした人びとのなかには、大勢の革命的青少年のほかにも、多くの革命的教員がいた。はるか離れた辺境から祖国の心臓部へやってきた新疆大学の教員余沢清同志と、うつくしい江南の地から雄壮な北京へやってきた南京大学の教員文鳳来同志たちは、偉大な指導者毛主席と、なん干なん万という大胆に考え、大胆にものいい、大胆に行動し、大胆に突進する革命的青少年に会っているうちに抑えることのできない興奮と感動をおぼえた。かれらは、毛主席の教えをしっかりと胸にきざきざみ、まず生徒になってから、先生となるようつとめます。なによりもまず、自分をプロレタリアートの後継者に鍛えあげて、はじめてつぎの世代のプロレタリアートの後継者を養成することができると、自分の気持ちをのべた。

*

*

*

毛主席は天安門の西の端で長い時間たたずんでいた。小勇将たちはなん干なん万という『毛主席語録』をさしあげながら、おどろあがつて歓呼の声をおこった。靴がぬげ、帽子が飛んだ。みんなは声をかぎりに歓声をあげ、すべてを忘れさってしまった。

北京三十四中学の学生鍾密君は毛主席の長時間にわたる検閲をうけたあと、感激のあまりうれし涙を流しながら自分の気持ちをこう語った。「毛主席が慈愛にみちた目でぼくたちを眺められ、ぼくたちに向かつて手をふられたとき、ぼくは、『世界はきみたちのものであり、また、われわれのものでもあるが、しかし、結局はきみたちのものである。……希望はきみたちにかけられている』と教えられている毛主席の声が聞こえたような気がしました。ぼくは毛主席の血色のいい、健康そうな顔を見て、このうえないよろこびを感じました。ぼくは心の底で毛主席に、『毛主席、安心して下さい！ぼくたちはかならずあなたの話を聞き、あなたについて一生涯革命をやりぬき、社会主義の祖国を永遠に変色させないことを約束します！』と誓いました」

北京工業学院附属中学の学生劉平君はほこらしげにつきのようにつづいた。「ぼくたち紅衛兵の宣言書のなかで『ぼくたちは毛主席と党中央の赤い衛兵です』といったとおり、ぼくたちは、きょう、天安門の観礼台で当番をつとめ、この任務をりっぱにはたしました。ぼくたちはかならず先輩たちの革命の赤旗をうけつづき、これを後代に伝え、かならず世々代々革命をつづき、世々代々毛主席と党中央の赤い衛兵になります」

すでに正午を過ぎていたが、喜びに沸きたつ無数のデモの隊列はあとからあとへと長い行進をつづけていた。このとき、太陽は特別に明るく、特別に暖かく思えた。われわれの偉大な教師、偉大な指導者、偉大な統帥者、偉大な舵手、全世界の革命的人民の心のなかのもつとももつとも赤い太陽——毛主席がふたび喜びにあふれる天安門の楼上に姿を現わしたので。毛主席の心とわれわれの心は一つに結びついており、さんぜんと輝く毛沢東思想の光りが威風堂々と前進する革命の隊列を照らしていた。

*

*

*

毛主席は大衆とともにいる

『人民日報』社説

(一九六六年八月二十日)

一九六六年八月十八日、われわれの偉大な教師、偉大な指導者、偉大な統帥者、偉大な舵手毛主席は、人民解放軍の軍服を身につけて、その親密な戦友林彪同志をはじめ他の同志とともに、天安門の楼上からプロレタリア文化大革命の百万の大軍を検閲した。

偉大な教師と革命的大衆は心と心が一つにかよいあい、ともに喜びをもってプロレタリア文化大革命を祝った。

毛沢東同志はもつとも大衆を信頼し、「人民、ただ人民のみが世界の歴史を創造する原動力である」と考えている。プロレタリア文化大革命のなかで毛沢東同志はわれわれに、大衆を信頼し、大衆に依拠し、大衆の創意性を尊重しなければならない、思いきって大衆を立ちあがらせ、大衆に自ら立ちあがって革命をおこなわせ、自分で自分を教育させ、自分で自分を管理させ、自分で自分を解放させなければならない、とくりかえし教えている。

一部のものが革命の途上でつまずくのは、ほかでもなく、かれらが大衆を信頼せず、大衆に依拠せず、大衆の

なかにひめられているきわめて大きな革命的積極性をさっぱり見てとれないからである。かれらはつねに、多くのわずらわしい不合理な規則で大衆の手足をしばり、ひどい場合には、大衆運動をおさえつけ、是非を転倒させ、白黒を混同させるまでに事態を混乱させる。そしてかれらは、革命の重大な時機に方向を見失って、まらがつた路線に踏み込んでしまうのである。こうした教訓は、わが党の歴史において決して少なくはなかった。われわれはこれを戒めとしなければならない。

毛沢東同志はいつも、共産党員は絶対に大衆から離れてはならない、絶対に大衆の上にあぐらをかき、役人風、だんな風を吹かせてはならない、反対に、普通の勤労者の姿で大衆の前にあらわれ、大衆のなかに深くはいり、大衆と一つにとけあわなければならない、と言っている。毛沢東同志は、われわれに輝かしい手本を示してくれている。毛沢東同志は一貫して人民の公ぼくになり、たえず人民のことを心にかけ、誠心誠意人民に奉仕してきた。毛主席は大衆との関係はもつとも親密である。毛主席は大衆をもつとも熱愛し、大衆にもつとも関心を払い、大衆の要求、願望、気持ちをもつともよく理解している。毛主席こそ大衆のもつとも親しい友である。

毛沢東同志は、もつとも謙虚な精神を持つている。毛沢東同志は、大衆に学び、大衆の経験を経括し、大衆の知恵をあつめることにもつともよく長じている。毛沢東同志はつぎのようにのべている。革命的政治家は、「なん千万もの大衆政治家の指導者であるにすぎず、かれらの任務は、大衆政治家の意見をあつめて、ねりあげ、これをふたたび大衆のなかへもちこんで、大衆にうけいられ、実践されるようにすることにあり、家にとじこもったまま世間にあわなないものをこねまわし、自分こそ利口だとうぬぼれ、本家本元はこただけで、他の店には卸さないというあの貴族的な、いわゆる『政治家』となることではない」

どの共産党員も、どの革命的幹部も、毛沢東同志の教えを守って、活動のなかで、大衆のなかから大衆のなかへという大衆路線を歩むことに長じなければならず、また、まず大衆の生徒になってから大衆の先生になるというのでなければならぬ。けつして、自分が知らないことを、むりに知ったかぶりをしてはならず、どんなことでも人に聞き、恥ずかしがらずに下部の人にたずね、よく大衆の意見に耳を傾けなければならない。状況がまだはつきりせず、大衆に相談していかないのに、ただちにさし図し、命令を下し、大衆の上に居すわってでたらめな指揮をするならば、かならず壁にぶつかってあやまちをおかしてしまうであろう。

毛沢東同志は現代のもつとも偉大なマルクス・レーニン主義者である。偉大な毛沢東思想と広範な大衆との緊密な結びつきは、われわれの共産主義事業の勝利の源であり、また、われわれのプロレタリア文化大革命の勝利の源である。

われわれは偉大な統帥者毛主席に永遠に忠実である

『解放軍報』社説

(一九六六年八月十九日)

われわれの偉大な指導者毛主席は、緑色の人民解放軍の軍服を身につけ、赤い星の輝く軍帽をかぶり、襟に目のさめるような真つ赤な襟章をつけて、巍然と天安門の楼上に立ち、プロレタリア文化大革命の百万の大軍を閲した。

毛主席のもっとも親密な戦友林彪同志が、そのそばに立っていた。

毛主席と林彪同志は、喜びに沸きたつ人びとの群れにとりかこまれて、かれらと親しく会見し、親しく握手をし、親しく談話をかわした。

このニュースが伝わると、全軍の指揮員と戦闘員は深く感激して、われを忘れたように喜びあつた。

毛主席が軍服を身につけたことは、わが軍にとつて最大の光栄であり、毛主席のわれわれにたいする最大の信頼、最大のはげまし、最大の期待を示している。われわれはかぎりない幸福とかぎりない誇りを感じるものである。

毛主席が軍服を身につけたことは、きわめて大きな、きわめて深い意義をもっている。それは全軍をふるいた

たせる大きなできごとであり、全国をふるいたせる大きなできごとである。

毛主席は、「中国人民解放のためのわれわれの闘争にはいろいろの戦線があるが、そのなかには文武の二つの戦線、すなわち文化戦線と軍事戦線があるといつてもよい」といつている。

プロレタリアートは、政治権力を奪いとるさい、この二つの戦線にたよるが、政治権力をうちかためるさいにも、この二つの戦線にたよるのである。

中国人民の偉大な指導者、中国革命の偉大な舵手毛主席は、この二つの戦線の最高司令官であり、偉大な統帥者である。

かつて、毛主席は軍服を身につけて、われわれを指導し、革命をおしすすめ、プロレタリアートの天下をきざりあげた。

今日、毛主席はふたたび軍服を身につけて、ひきつづきわれわれを指導して革命をおしすすめ、われわれの偉大な祖国をプロレタリアートの難攻不落の国家にきざりあげることを決意している。

毛主席が軍服を身につけたことは、けつして階級闘争を忘れてはならず、プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめ、社会主義革命を最後までおしすすめなければならぬことをわれわれに教えている。ブルジョア思想が存在するかぎり、われわれはあくまで戦いつづけるであらう。

毛主席が軍服を身につけたことは、帝国主義の存在をけつして忘れてはならないことをわれわれに教えている。アメリカ帝国主義とその手先があえてわが国に攻撃をしかけてくるならば、われわれは徹底的にかれらを消滅するであらう。

毛主席が軍服を身につけたことは、わが党とわが軍の刻苦奮闘の光栄ある伝統を永遠に保ち、勤労人民の特色を永遠に保つようわれわれに教えている。

偉大な統帥者毛主席、われわれは永遠にあなたに忠実であり、党に忠実であり、人民に忠実であり、毛沢東思想に忠実である。

われわれは、永遠にあなたの著作を読み、あなたの話を聞き、あなたの指示どおりに事をはこび、あなたのりっぱな戦士になる。

われわれは、永遠にあなたについて、あらしのなかを突きすみ、あなたの指し示すところなら、どこへでも戦いすむであらう。

古いものをうちこわし

新しいものをうち立てる思想の大革命

『解放軍報』社説

(一九六六年八月二十日)

わが軍の全同志の心は、首都と全国の革命的大衆の心とひとつになって躍動し、ともに天安門天安門に向かい、もつとも敬愛する指導者毛主席に向かい、毛主席の親密な戦友林彪同志リンビョウとその他の中央の指導的同志に向かい、ともにプロレタリア文化大革命を祝い、文化大革命の新しい高まりを迎えている。

毛主席は、ますますさまじい勢いを示しているプロレタリア文化大革命にひじょうに高い評価をあたえている。

毛主席はプロレタリア文化大革命の百万の大軍を検閲したさい、喜びをこめて林彪同志に、「この運動は規模がひじょうに大きく、たしかに大衆を立ちあげさせており、全国人民の思想の革命化にとってひじょうに大きな意義をもっている」と語った。

毛主席の提起したプロレタリア文化大革命は、古いものをうちこわし、新しいものをうち立てる思想の大革命

である。この大革命は、とりもなおさず、ブルジョア思想を消滅し、プロレタリア思想を樹立し、人のたましいを改造し、人の思想の革命化を実現し、修正主義の根をとりのぞき、社会主義制度を強化し、発展させることである。

われわれは、林彪同志が呼びかけたように、かならず偉大な統帥者毛主席の指揮のもとで、ブルジョアジーとあらゆる搾取階級の思想にたいして総攻撃をおこない、プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめなければならぬ。

われわれは社会主義を建設するにあたって、二つの戦線から進撃しなければならない。一つは物質の戦線であり、もう一つは精神の戦線である。われわれは、プロレタリアートの政治を先行させ、精神の戦線をしっかりとつかみ、プロレタリア思想をおこし、ブルジョア思想を滅ぼすこの戦いをりっぱにやりとげなければならない。思想の面での戦いに勝つてこそ、物質の面での戦いにも勝つことができるのである。われわれは、けつして修正主義国家のように、物質の面にだけ力をそそぐことはできない。物質の面にだけ力をそそげば、必然的に後退し、必然的に資本主義の復活をもたらす。

われわれは、徹底した弁証法的唯物論者であり、史的唯物論者である。われわれは一貫して、人民大衆こそ歴史の創造者である、と考えている。そのため、われわれは政治・思想工作と、大衆に力と知恵を発揮させることをきわめて重視している。大衆を思想的に武装させ、たちあがらせれば、どのような方法でも出てくるし、どのような事柄でもりっぱになしとげることができる。これは、わが党がわが国を弱いものから強いものへ、立ちおくれたものから先進的なものへと指導してきた根本的な方法である。

軍隊の活動に従事しているわれわれの同志は、たんに軍事だけをやったり、業務だけをやったり、技術だけをやつて、政治・思想をおろそかにする傾向に断固反対しなければならぬ。業務はどうすればりっぱにやることのできるだろうか。仕事はどうすれば成果をあげることができるだろうか。それは、人の思想的様相を変えるしかない。

思想の形成過程についていえば、客観から主観へ、実際から思想へである。事柄を処理する過程についていえば、主観から客観へ、思想から実際へである。革命の仕事をりっぱにすすめるには、なによりもまず、思想の革命、すなわち主観的世界の革命をおこなわなければならない。われわれは思想の革命に大いに力を入れ、思想の面から問題を解決すべきである。人の思想が革命化すれば、各種の仕事を進進し、それによってわが軍の建設を飛躍的に発展させ、戦闘力を大いに高めることができるのである。

われわれは、あらゆる古い思想を変革し、新しい思想を古い思想にとつてかわらせなければならない。新しい思想とは、とりもなおさず、毛沢東思想である。

毛沢東思想はマルクス・レーニン主義のまったく新しい発展段階であり、現代の最高水準のマルクス・レーニン主義であり、人びとのたましいを改造する現代のマルクス・レーニン主義であり、プロレタリアートのもつとも強大な思想的武器である。毛沢東思想で武装された人は、もつとも高尚であり、もつとも純粋であり、もつとも聡明であり、もつとも勇敢である。

プロレタリア文化大革命は、とどのつまり、毛沢東思想を大いにうち立てようとすることであり、何億という人民に毛沢東思想を自分のものにさせ、毛沢東思想にすべての思想の陣地を占領させ、毛沢東思想によって社会

全体の精神的様相を改め、毛沢東思想という偉大な精神的な力を偉大な物質的な力に変えることである。プロレタリア文化大革命のなかで、われわれは断固として林彪同志の指示にしたがい、毛主席の著作をいっそうりっぱに実際と結びつけて学び、運用し、運用の面に思いきり力をそがなければならない。わが軍の全同志、なかでもまず各級の指導的幹部は、この空前の偉大な大衆運動のなかで鍛練され、試練をうけなければならない。われわれは、ブルジョアジーとあらゆる搾取階級の旧思想、旧文化、旧風俗、旧習慣を大いにうちこわし、プロレタリアートの新思想、新文化、新風俗、新習慣を大いにうち立て、いちだんと思いの革命化を実現して、党と人民がわれわれにあたえたすべての任務を勝利のうちに達成しなければならない。

毛主席、百万の大衆とともに文化大革命を祝う

1967年 初版発行

定価 40 円

出版者 外文出版社

(北京阜成門外百万莊)

発行者 中国国際書店

(北京 P. O. Box. 399)

番号: (日)3050-1566

3-J-818P
00042

表紙説明

天安門の樓上から、プロレタリア文化大革命祝賀樂会に参加した百万の大衆に手をふってあいさつをおくる偉大な指導者毛主席